

オミクロン株の特徴を踏まえた感染防止策について（概要）

- オミクロン株の特徴を踏まえた対策を効果的に進めるためには、実際に発生しているクラスターを分析し、その特徴を踏まえることが不可欠であることから、全国知事会の協力を受けて、オミクロン株に特徴的なクラスターの事例を収集した。
- 上記の事例からオミクロン株の特徴を踏まえた感染防止策の着眼点は以下のとおりである。
 - ・感染拡大のスピードが速く、無症状者や軽症者が多いため、医療のひっ迫時に実施することになっている高いレベルの感染防止策を前倒して実施する必要がある。
 - ・飛沫や換気の悪い場所におけるエアロゾルが原因で感染が多く、これに対応した対策が重要。
 - ・子どもが感染しやすくなっており、学校等での感染に加え、家庭に持ち帰り、家庭内でも感染が拡大する事例が見られる。
 - ・高齢者を中心に基礎疾患のある者が、オミクロン株への感染が契機となって基礎疾患が増悪する事例が多い。

主な提言内容

- ・飲食は少人数で黙食、会話はマスクの着用を徹底/家庭内でも定期的に換気/子どもの感染防止策を徹底/高齢者等は感染リスクを減らす
 - ・追加接種を速やかに実施
- 【学校等】
- ・特に感染のリスクが高い学習活動については、レベルにとらわれず基本的に実施を控える。
 - ・学校全体の臨時休業とする前に時差登校や分散登校、オンライン学習等を実施。学校全体の臨時休業は、慎重に検討。
- 【保育所】
- ・休園した保育所の子どもに対する代替保育サービスを確保するなど地域の保育機能を維持していくべき。
 - ・感染リスクが高い活動を避け、できるだけ少人数のグループに分割すること。
 - ・大人数での行事を自粛すること。
 - ・一時的な取扱いとして、発育状況等からマスクの着用が無理なく可能と判断される児童は可能な範囲でマスク着用を推奨すること。
 - ・保育所の職員に対する積極的な検査を実施すること。
- 【高齢者施設】
- ・集中的実施計画に基づく頻回検査を実施すること。
 - ・業務継続や退院患者の早期受入等について、支援体制を強化すること。
 - ・通所サービスを継続するため、感染対策をさらに徹底すること。
 - ・感染が拡大している地域では、オンラインによる面会の実施も含めて対応を検討すること。
 - ・高齢者施設等の利用者及び従事者に対するワクチン追加接種を速やかに実施すること。
- 【事業所】
- ・緊急事態宣言の発出を待つことなく、在宅勤務（テレワーク）の活用等による出勤者数の削減の目標を前倒して設定すること。
 - ・感染が拡大している地域への出張は基本的感染対策を徹底し、感染リスクの高い行動は避けること。
 - ・休憩室、更衣室、喫煙室等における飲食や会話の自粛、適切な換気、三密回避を徹底すること。
 - ・大人数、大声の場面が想定される懇親会等は自粛・延期すること。
 - ・事業継続が求められる業種に係る業務継続計画（BCP）の確認等を進めること。